現代トルコ語の問い返し疑問文における接語mIの形態・統語的位置の問題

吉村 大樹

（東京外国語大学AA研フェロー／長崎大学非常勤）

本発表の構成

1. 現代トルコ語の問い返し疑問文
2. 理論上・記述上の問題点
3. 考察
4. 本発表のまとめと今後の課題

1. トルコ語の問い返し疑問文

- 現代トルコ語（以下、「トルコ語」）の諾否疑問文：接語mIが諾否疑問文に出現する
  - {動詞語形}<{人称接辞}<{=mI}（-Dİ過去形、-sA仮定形）
  - {動詞語形}<{=mI} }<{人称付属語}（現在形、未来形、-mİş過去形、中立形）

(1)

a. Duy-du-n=mu?
聞く-過去-2単=mI
「（君）聞いた？」

b. Duy-uyor=mu=sun?
聞く-現在=mI=2単
「（君）聞いてる？」

※(1)以降、グロスの記号(=)は接語境界を示す。またスクエア・ブラケットは語境界を示す。

1. トルコ語の問い返し疑問文

- 人称形式と=mIの相対的順序の議論：Besler (2000), Sezer (2000), Yoshimura (2005), 他多数。服部(1950)でもトルコ語について言及がある

(2) (Yoshimura 2005)

a.	(Sen)	sigara [iç-ti-n=mi/	*iç-ti=mi=sin/	*iç-ti=mi-n] ?
	2単	たばこ 吸う-過去-2単=mI	吸う-過去=mI=2単	吸う-過去=mI-2単
	「（君、）たばこを吸った？」			
b.	(Sen)	sigara [iç-iyor=mu=sun/	*iç-iyor=sun=mu?/	*iç-iyor=mu-n]?
	2単	たばこ 吸う-現在=mI=2単	吸う-現在=2単=mI	吸う-現在=mI-2単

「（君、）たばこを吸う（の）？」

人称付属語とmIの配列順序

- 「定まってはいない」(Eker 2010: 302)
  - 話者の判断の差に揺れがありそう：Adalı (1979, 2004)は下記(3)において、左側の列の形式が「より一般的で広い」と述べている一方、右列の形式も文法的であるとしている
  - 発表者があたったトルコ語情報提供者の判断も同様
  - 形態論の問題？それとも統語論の問題？

(3) (cf. Adalı 1979, 2004: 65)

a. ver-miş mi=yim	ver-miş=im=mi
b. ver-ir=mi=yim	ver-ir=im=mi
c. ver-iyor=mu=yum	ver-iyor=um=mu
d. ver-ecek=mi=yim	ver-eceğ=im=mi
e. ver-meli=mi=yim	ver-meli=yim

人称付属語の縮約形式（？）

- →(4b): -Dİ過去形、-sA仮定形(4a)のものとは異なる系列の語尾

(4)

a. Okul-a　git-ti-**k**.
学校-方向格　行く-過去-1複
「（私たちは）学校に行きました」
b. Okul-a　**gid-ice-z** /　gid-eceğ-iz.
学校-方向格　行く-未来-1複 行く-未来-1複
「（私たちは）学校に行くつもりです」

人称接辞 vs. 人称付属語

人称接辞

	単数	複数
1人称	-m	-k
2人称	-n	-nIz

- 人称接辞の母音部分はアクセントが付与されうる→屈折接辞
- 1人称複数の接辞は、人称付属語のそれと子音部分が異なる

人称付属語（接語代名詞）

	単数	複数
1人称	-(y)Im	-(y)Iz
2人称	-sIn	-sInIz

- 人称付属語にはアクセントが付与されない
- 動詞述語との間に別の語や付属語の生起を許す（e.g. 否定語değil, 付属語-mI）

縮約人称付属語とmIの相対的位置

- 「**トルコ語話しことばコーパス**」（グローバルCOE「コーパスに基づく言語学教育研究拠点」）からの実例

※例文の注釈（かっこ部分）の位置は便宜上発表者が移動させている。また、和訳も発表者による

(5)　bu-nlar-ı　　　　　　hesap mesap
　　これ-複数-限定目的格　計算　（重複形式）

[yap-ıca-**z**=mı] (?) / (yap-acak=mı=yız)
する-未来-**1複**=mI　する-未来=mI=1複
「（私たち）これらを計算などするのですか？」

（コーパス参照：TUFS_TR200901IS03）

諾否(yes-no)問い返し疑問文

(6) (Kornfilt 1997:32, ただし和訳と接語境界認定は発表者による)

Speaker A:　Sinema-ya　gid-iyor=um.

映画館-方向格　行く-現在=1単

「映画館に行きます」

Speaker B:　[Sinema-ya　gid-iyor=um]=mu　de-di-n?

映画館-方向格　行く-現在=1単=mI　言う-過去-2単

「『映画館に行きます』って言ったの？」

参考

- (6’)で話し手Bの発話が不適格であることはどのように説明するとよいか？

(6’)

Speaker A:　Sinema-ya　gid-iyor=um.

映画館-方向格　行く-現在=1単

「映画館に行きます」

Speaker B:　Sinema-ya　*gid-iyor=mu=yum　de-di-n?

映画館-方向格　行く-現在=mI=1単　言う-過去-2単

（意図した読み：「『映画館に行きます』って言ったの？」）

疑問詞問い返し疑問文

- 問い返しする部分を疑問詞で示す（e.g. (7);ただし本発表の研究対象からは除外）

(7)（Kornfilt 1997:34, 太字部分も引用元と同様。ただしグロス、和訳は発表者による）

Speaker A:	Sinema-ya	gid-iyor=um.
	映画館-方向格	行く-現在=1単
	「映画館に行きます」	
Speaker B:	**Nere-ye**	de-di-n?
	どこ-方向格	言う-過去-2単
	「どこにって言ったの？」	

諾否疑問文の問い返し疑問文

(8) (Kornfilt 1997:34)

Speaker A:	Sinema-ya=mı	gid-iyor=sun?	
	映画館-方向格=mI	行く-現在=2単	
	「（君）映画館に行くの？」		
Speaker B:	Efendi-m?	Sinema-ya=mı	gid-iyor=um?
	～様-1単	映画館-方向格=mI	行く-現在=1単
	「え？私が映画館に行くですって？」		
	(Hayır,	tiyatro-ya	gid-iyor=um.)
	いいえ	劇場-方向格	行く-現在=1単
	（「いいえ、劇場に行くんです」）		

疑問詞疑問文の問い返し疑問文

- 疑問詞（または疑問詞の統語的主要部）にmIが後接

(9) （Kornfilt 1997:34-35 ; ただし下線部は発表者による）

Speaker A: Yarın akşam nere-ye gid-ecek=sin?
明日 夕方 どこ-方向格 行く-未来=2単
「明日の夕方、どこに行く予定？」

Speaker B: Yarın akşam nere-ye=mi gid-eceğ=im?
明日 夕方 どこ-方向格=mI 行く-未来=1単
「明日の夕方（私が）どこに行く予定かって？」

2. 理論上・記述上の問題点

- 接辞＜付属語（接語）（服部 1950）。では、付属語（接語）どうしの順序は？
- =mIの生起位置には形態論・統語論のどちらが関与しているのか？または、どこが（or 何が）=mIの生起位置を決定しているのか？
- 生起位置が不適格である例をどのように説明できるか？
- 疑問代名詞と=mIの共起制限関係はどのように記述できるか？

(10)（吉村 2022: 128）

a. Kim=mi gel-di?
誰=mI 来る-過去
「誰が来たかって？」

b. *Kim gel-di=mi?
誰 来る-過去=mI
（意図した読み：「誰が来たかって？」）

mIの生起位置はどこが決める？

- 形態論上、母音調和規則を受ける前の語？→おそらく”No”

(11) (Eker 2010: 344)

a.	Bu	roman-ı	siz	yaz-dı-nız=mı?
	この	小説-限定目的格	2複	書く-過去-2複=mI
	「この小説をあなたは書きましたか？」			
b.	Siz=mi	bu	roman-ı	yaz-dı-nız?
	2複=mI	この	小説-限定目的格	書く-過去-2複
	「あなたがこの小説を書いたのですか？」			
c.	Bu	roman-ı	siz=mi	yaz-dı-nız?
	この	小説-限定目的格	2複=mI	書く-過去-2複
	「この小説を、あなたが書いたのですか？」			

- 統語的制約によって=mIの位置が決まっていると思しき例がある

3. 考察

- トルコ語における接語の形態構造・統語構造の両面からの記述
- {Word+ Clitic(s)}で構成される語形の認定（ホスト・フォーム(host-form: Hudson 2007, 2010; Yoshimura 2011)）
  - トルコ語における一部の付属語（=接語）が母音調和する理由が説明できる
  - 複合語との共通性が記述・説明できる

ホスト・フォームと複合語の例

(12)

a. [gel-iyor=uz]（単独の語形＋接語）
来る-現在=1複
「私たちは来ます」

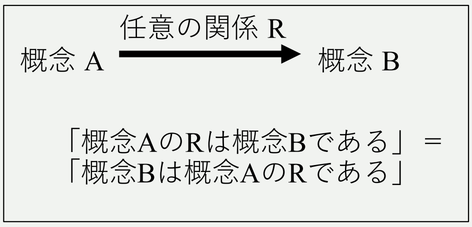
b. [bilgi+ say-ar] （N1-N2（N2はV派生）；所有接辞なし）
情報 計算する-V派生
「コンピュータ；パソコン」

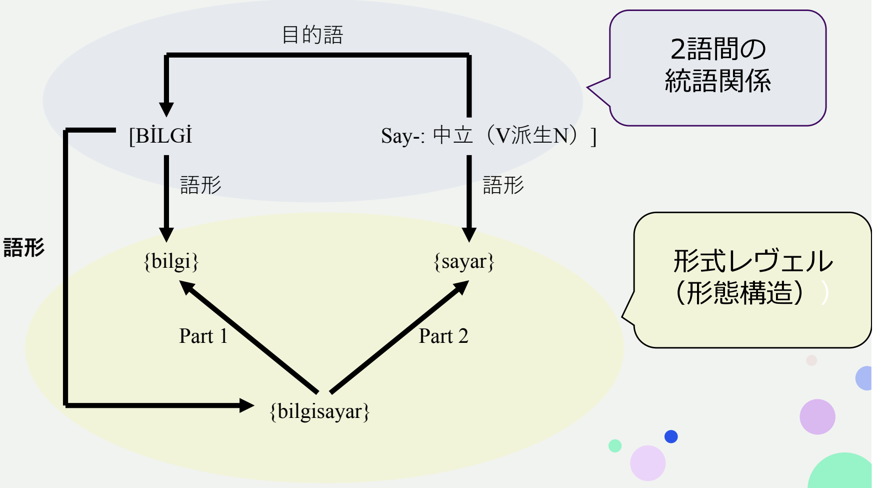
c. [ders kitab-ı]（N-N; 所有（限定）接辞を伴う）
授業 本-限定
「教科書」

- (12a): 一つの語形を認定する明確な利点：**母音調和の境界を説明できる**

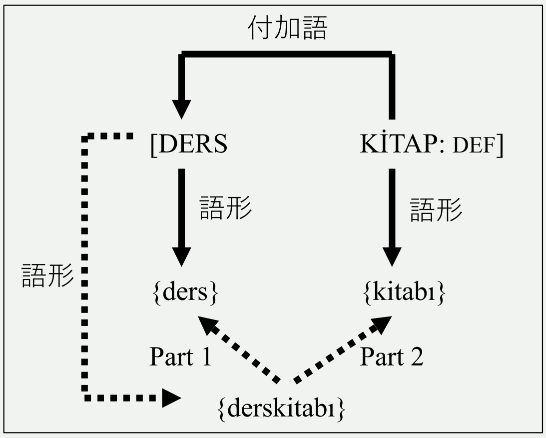
複合語{bilgi+sayar}の分析

- 3種の語（語彙素）が関与：BİLGİ「知識；情報」、SAYAR「計算する：中立形」、BİLGİSAYAR「コンピュータ；パソコン」
- 矢印表示の意味：





限定語尾を伴う複合語

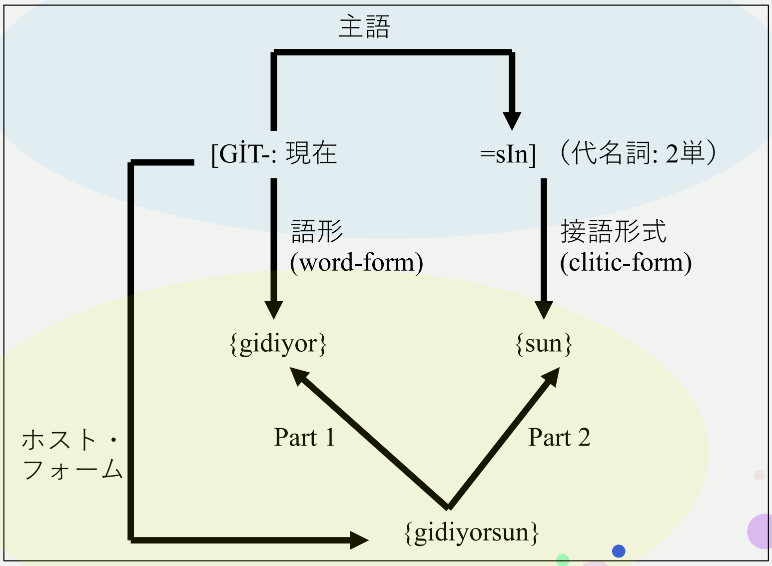


- 複合語自体の語形は心理的実在的に存在する？
  →限定語尾を伴う語形成は相当に生産的
- 少なくとも、複合語の構成要素間の統語関係（cf. 栗林 2010）は認定できる

統語関係

ホスト・フォーム分析

接語の「宿主」（ホスト）となる語（トルコ語の場合は接語が後接する対象となる、つまり直前に生起する語）と接語が複合的に一つの語形を形成するという考え方



形式レヴェル

接語のクラスター

- (2b)の例：動詞部分 {iç-iyor=mu=sun}
  - ホスト・フォーム内部の形態素配列規則はどの程度厳密なのか？Yoshimura (2005)が想定しているほど厳密ではないかもしれない

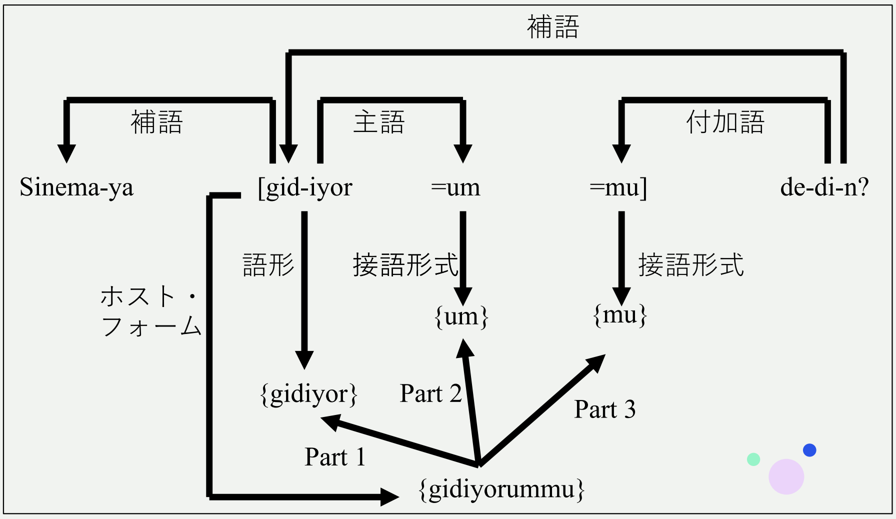
(13)

*iyor-iç=mi=sin / *iç=mi=sin-yor...
現在-飲む=mI=2単 飲む=mI=2単-現在
（意図した読み：「（君は）（任意の対象Xを）飲んでいるの？」）

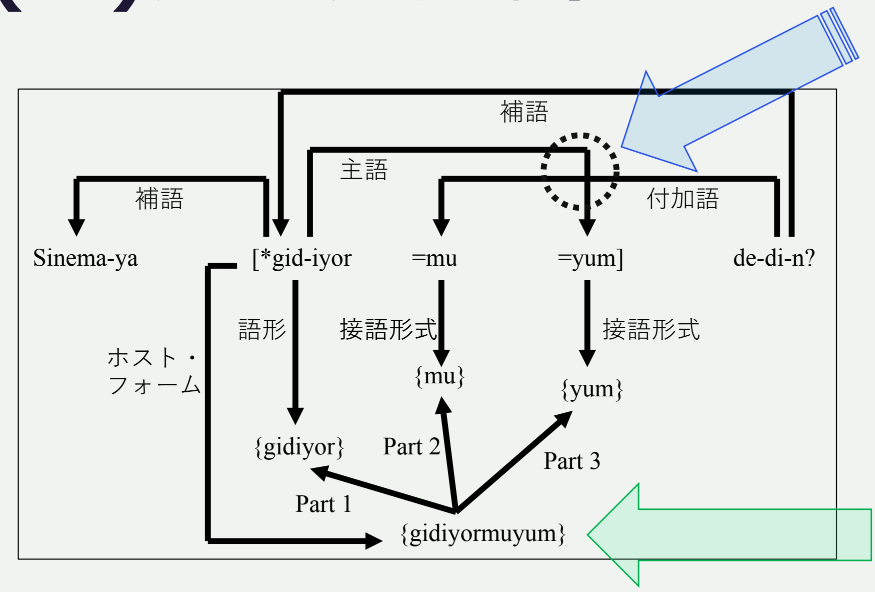
- (6)との対比：接語mIと接語代名詞（＝人称付属語）の相対的序列には統語的環境が干渉してくる（のではないか？）

(6)の形態・統語分析

- (6)の話し手Bの発話部分を再掲：
  [Sinema-ya gid-iyor=um]=mu de-di-n?
- ホスト・フォーム{gidiyorummu}が適格であるとしなければならない！



(6’)がアウトな件



統語関係をもつ2語間に
別の語は生起できない
（不連続構成素の排除）

ホスト・フォームの
形態素配列は適格

接語mIは‘special clitic’なのか？

- mIの生起位置は通常の統語論（トルコ語の場合は主要部後置型）で説明できないか？
  - ‘special clitic’ (cf. Zwicky 1977)?
  - ワッカーナーゲル・クリティックの一種（動詞直前位置にmIが基底生成され、焦点化される要素がその直前位置に移動してくる）とする立場がある(Kamali 2011)が、これは別の議論（問い返し疑問文、述語部分の接語クラスターについては言及していない）
  - 発表者のこれまでの立場：統語論上はシンプルな語として分析可能
    - mIに対して、主節の述語（あるいは従属節の動詞述語）が統語的主要部とみなせる
      - mIの生起の有無じたいは、文の成立の可否に関与しない
      - mIが一文中に2つ以上生起可能である→主節の述語がmIの生起を支配している
      - 「mIの生起位置を決定するのが動詞（述語）である」とは考えられるが、「述語の位置を決定するのがmIである」とは考えにくい（ただしKamali 2011は後者の立場）

「ホスト・フォーム」は広義の複合語？

- 複合語と「ホスト・フォーム」の形態・統語構造の共通点と相違点
- 共通点：
  - 2語、および「X＋Y」からなる語（Yは接語あるいは複合語の第二要素）の3語が関与する
  - 要素内部の形態構造と、要素間の統語関係を同時に有している
- 相違点：
  - アクセント位置（ただし複合語のアクセント位置はケースバイケース）
  - 母音調和の境界。複合語のほうは第一要素と第二要素は別々に母音調和規則を受ける
  - 「ホスト・フォーム」内部の形態素配列規則が複合語内部のそれより緩い（？）

4. 本発表のまとめと今後の課題

- 問い返し疑問文の分類：
  - 問い返し諾否疑問文
  - 問い返し疑問詞疑問文
  - 諾否疑問文の問い返し疑問文
  - 疑問詞疑問文の問い返し疑問文
- トルコ語のmIは直前の語（ホスト）と一つの語形を形成するが、統語的関係は別に説明されるべきである。直前の語と関係する場合もあるし、さらに「外側」の語と関係する場合もある
- 問い返し疑問文も含めたmIの生起位置の予測には形態論・統語論両面からの説明が必要（＋意味論からも）→記述・説明の精緻化が今後の課題

Dinle-diğ-iniz için
聞く-形動詞-2複 ために
teşekkür [ed-er=iz]!
感謝 する-中立=1複

謝辞

- 本研究は科研費基盤研究B（課題番号20H01279; 研究代表者 川口裕司、研究科題名：「言語変異に基づくフランス語、日本語、トルコ語の対照中間言語分析」）の支援を受けている。
- また、提示した作例についてはトルコ語情報提供者（20代男性、イスタンブル出身ん）の判断を仰いでいる。このほか、本発表の機会を提供してくださった風間伸次郎先生、児倉徳和先生ほか各氏に心よりの謝意を表する。
- 上記の情報提供者、先生方ほか各位のご支援・ご協力にもかかわらず、本研究の内容上の過失は当然のことながらすべて発表者に帰する。

参照文献(1)

Adalı, Oya (1979, 2004). *Türkiye Türkçesinde Biçimbirimler* （『トルコ語における形態素』）. Ankara: Türk Dil Kurumu.

Besler, Dilek (2000). *The Question Particle and Movement in Turkish*. MA thesis submitted to Boğaziçi University.

Eker, Süer (2016). *Çağdaş Türk Dili* （『現代トルコ語』）. Ankara: Grafiker.

服部四郎 (1950). 「附属語と附属形式」『言語研究』 15号, 日本言語学会. pp.1-26.

Hudson, Richard (2007). *Language Networks: A New Word Grammar*. Oxford: Oxford University Press.

Hudson, Richard (2010). *An Introduction to Word Grammar*. Cambridge: Cambridge University Press.

参照文献(2)

Kamali, Beste (2011). *Topics at the PF Interface of Turkish*. PhD Dissertation submitted to Harvard University.

栗林裕 (2010). 『チュルク語南西グループの構造と記述』.東京：くろしお出版.

Kornfilt, Jaklin (1997). *Turkish*. London/New York: Routledge.

Sezer, Engin (2000). Finite inflection in Turkish. In Taylan, Eser Ergüvanlı (ed.) The Verb in Turkish. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins. 1-45.

Yoshimura, Taiki (2005). On the order of the TAM marker, the question particle mI and the personal suffix in Turkish. 『神戸外大論叢』56号(2). 神戸市外国語大学. pp.195-211.

参照文献(3)

吉村大樹 (2022). 「トルコ語のmIは『疑問のマーカー』なのか？」児倉徳和・佐藤久美子（編）『チュルク語文法の諸相：音韻・形態統語・意味』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所. pp.125-149.

Zwicky, Arnold (1977). *On Clitics*. Indiana University Linguistics Club.

利用したコーパス

「トルコ語話しことばコーパス」（グローバルCOE「コーパスに基づく言語学教育研究拠点」）(http://cblle.tufs.ac.jp/multilingual_corpus/tr/)